１学年　あさひのラーニング（学際的な学習の時間）　単元デザイン

◇ あさひのラーニング（学際的な学習の時間）の目標

・各教科の枠組みだけでは解決できない、現代社会の諸問題や SDGs にかかわる諸問題などの学際的な諸問題をテーマに設定し、各教科の見方・考え方を働かせた、探究的な学習を行う。
・各教科での学習を、実生活・実社会での問題発見・解決に生かしていく教科横断的な学びを行う。また、そのために必要な知識や技能を身に付ける学習も行う。

１ 単元名・学年　「探究の『問い』を見いだそう」・１年　【講座学習】

２ 単元のねらい　　※【　】内は、新たな価値を創造できる資質・能力との関連を指している

探究の問いをリサーチクエスチョン*へと発展させる場面で、問いの種類に着目して、クエスチョンマッピングからテーマについての問いを広げ深めたり、立てた問いの妥当性を検討したりすることを通して、探究の問いの立て方を理解することができる。
【ア　問題発見・解決能力（各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見出すこと）】

＊「リサーチクエスチョン」の定義について

リサーチクエスチョンは、教材『課題研究メソッド』**には「調査・実験が必要な、すぐに答えが見付からない問い」と示されている（課題研究メソッドZERO P.56）。これを踏まえ、本校で大切にしている「自己の生き方」としての問いにつながるように、「調査・実験が必要なすぐに答えが見付からない自分が解決したい問い」と据え、生徒と共通理解している。なお、本校では探究活動において、探究の問いをリサーチクエスチョンへと発展させていくことが重要であると捉えている。

＊＊教材『課題研究メソッド』について

本校では「探究的な学習」を進めていくにあたり、副教材として、『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッドZERO／岡本尚也／株式会社 新興出版社啓林館』（**左図**）を適宜活用している。本教材は、探究活動の授業を１年間で無理なく進められるよう全６章立てで解説されている。

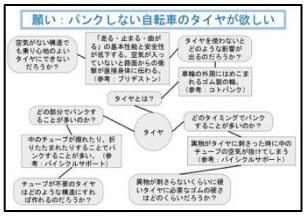
本単元では、主に第１章の「問いの種類」や第３章の「クエスチョンマッピング」（**右図**、P.４資料）を参考にしながら、学習を進めていく。

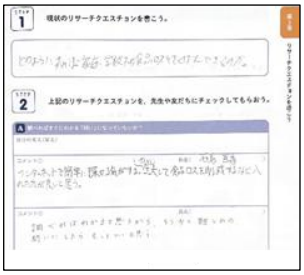
３ 単元終末の生徒の姿（単元の振り返りの記述例）

（振り返りの視点：リサーチクエスチョンに近づくことができたか・探究の問いを立てる際に大切なこと）

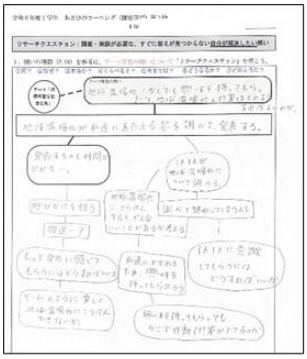
テーマに対する探究の問いを立ててみて、改めて探究の問いを設定することの難しさを感じた。問いを立てる際には、「何？」「どうなるか？」「どのように？」などの問いの種類の視点からテーマを捉えることで、問いを広げたり、深めたりすることができた。最初からリサーチクエスチョンにすることは難しいが、「調べると分かる問い→調査」を繰り返すことで、リサーチクエスチョンへと近づくことができると思った。また、リサーチクエスチョンを導く際には、友と「具体性があるか」を検討し合うなど、客観的に考えることも大切だと思った。今後、探究の問いを立てるときは、問いを更新してリサーチクエスチョンに近づけたり、具体性など客観的な視点で問いを検討したりすることを大切にできるとよいと思った。

４ 単元展開（全４時間扱い、本時は第２時と第４時）

時間	◆ねらい　・学習活動　◇教師の支援・指導	課題研究メソッドの該当ページや授業で用いる資料など
本単元までに	・あさひのラーニング前単元の重点「問いの立て方」について、課題研究メソッドを読み合わせたり、内容についての意見交換を行ったりして、理解を深める。	・序章～第２章（P.４～52）
	あさひのプロジェクト「これからの社会に触れる私」 ・「身近な地域貢献」をテーマに、探究活動において自分には何ができるのか、探究の問いを立てる。※本単元と並行して学習している。	
1	◆クエスチョンマッピングから、共通のテーマについて探究の問いを立てる ◇身近な発明品の例として、「空気が不要な自転車用タイヤ」（**図１**）を提示する。生徒とのやりとりから、探究の問いに対して調査・実験・検証…新たな問いが繰り返されて、発明品が誕生したことを確認する。 ・探究の問いについて、あさひのプロジェクトの学習で自分が考えた探究の問いや問いの追究過程と、２・３年生が立てた探究の問いについてグループの友と共有する。 ◇「私は探究の問いを立てることが難しく、探究の見通しをもつことに苦労している。」や「２・３年生の探究の問いは具体的で、何を行っていくのかが明確だ。」などの生徒の反応から、「問いの立て方」に重点を置いた学習を行うことを確認する。 ◇「空気が不要な自転車用タイヤ」のクエスチョンマッピング（**図２**）から、リサーチクエスチョンの定義を確認する。 ◇探究の問いをリサーチクエスチョンへと近づける方法を理解するために、共通の課題に取り組むことを確認する。 **【学習問題】** **「学校におけるフードロス」について探究しようとしているＡさんが、問いを立てられずに困っています。あなたなら、どのような問いを立てますか？** ◇「空気が不要な自転車用タイヤ」のクエスチョンマッピングの中心（キーワード）からつながっている問いの種類について問いかけ、始めは「何？（定義）」「いつ？」などの４種類の問いを立てることを確認する。 **【学習課題】** **キーワードからつながる４種類の問いに着目し、一つ以上の探究の問いを立て、簡単な調査を行おう。** ◇問いに対する答えが見付かった生徒に対しては、他の種類の問いを立てたり、答えから問いを更新したりするように促す。	・第３章（P. 56～59） **図１　空気が不要な自転車用タイヤ**  **図２　空気が不要な自転車用タイヤのクエスチョンマッピング** ※P.5 資料に拡大図を掲載
2 本時 Ｅ組	◆共通のテーマについて立てた探究の問いを、リサーチクエスチョンへと発展させる ・前時の振り返りやクエスチョンマッピングの様子を共有する。 ◇一つの問いについて調査して分かったことから、「学校での取組」についての問いへと発展させることでリサーチクエスチョンへと近づくことを確認する。 **【学習課題】** **問いの種類を参考に、探究の問いをリサーチクエスチョンへと近づけよう。** ◇生徒が立てた問いに対して、「本当に解決したい問いになっているか」問いかけ、学校に関する問いに近づけるように促す。 ・追究の様子をグループや全体で共有する。	・第１章（P.18～21） ・第３章（P.56～61） **図３　先行実施学級の生徒の学習カード** ※P.6 資料に拡大図を掲載

<table>
<tr>
<td>3</td>
<td>◆個人で立てた探究の問いが、リサーチクエスチョンとして妥当かどうかを検討する
◇前時の振り返りを共有し、個人で具体化した問いがリサーチクエスチョンとして妥当かどうかを、課題研究メソッドのチェック項目（図４）の「調べればすぐにわかる『問い』になっていないか」と「リサーチクエスチョンに具体性があるか」について、友と検討し合うことを確認する。
【学習課題】
立てた問いが「調査・実験が必要か」「具体性があるか」に着目して、友と検討し合おう。
・個人で具体化した問いがリサーチクエスチョンとして妥当かどうか、グループで意見交換する。
◇検討の視点として、問いに用いられている言葉が意味する範囲について考えるように促す声掛けを行う。
◇グループでの意見交換の際には代案を伝えることを確認する。
・追究したことをグループや全体で共有する。
◇生徒の「自分が興味関心のあるテーマについて探究の問いを立てたい」という反応を共有する。
・自分が興味関心のあるテーマを、キーワードとして決め出す。</td>
<td>・第３章（P.62～64）
 
図４　先行実施学級のリサーチクエスチョンとして妥当か検討する場面の学習カード
※P.7 資料に拡大図を掲載</td>
</tr>
<tr>
<td>4

本時
C組</td>
<td>◆自分が興味関心のあるテーマにおける探究の問いを発展させる
・前時の振り返りを共有し、これまでの学習を踏まえて、探究の問いをリサーチクエスチョンへと発展させるために大切なことを確認する。
【学習課題】
自分の興味関心のあるテーマにおける探究の問いを、リサーチクエスチョンへと近づけ、妥当性について友と検討し合おう。
・前時に考えた自分が興味関心のあるテーマ（キーワード）についてのクエスチョンマッピングから、探究の問いをリサーチクエスチョンへと発展させる。
◇問いを具体化させたり深めたりするために、問いの種類の視点から考えるように促す声掛けを行う。
・個人で具体化した問いがリサーチクエスチョンとして妥当かどうか、友と検討し合ったり、グループで意見交換したりする。
◇第３時同様、課題研究メソッドのチェック項目の「調べればすぐにわかる『問い』になっていないか」と「リサーチクエスチョンに具体性があるか」について、友と検討したり、意見交換の際には代案を伝えたりすることを確認する。
◇立てた探究の問いが、本当に自分が解決したい問いになっているか問いかける。
・以下の視点で、単元の学習を振り返る。
振り返りの視点：
①　リサーチクエスチョンに近づけることができたか
②　探究の問いを立てる際に大切なこと

【評価】
・探究の問いの立て方を理解している。（観察・ワークシート等）</td>
<td>・第１章（P.18～21）
・第３章（P.56～64）
 
図５　先行実施学級の生徒の学習カード
※P.8 資料に拡大図を掲載</td>
</tr>
<tr>
<td>単元終了後</td>
<td>◇第４時に立てた探究の問いとあさひのプロジェクト「これからの社会に触れる私」で立てた探究の問いを関連させて、問いを更新するように促す。
◇探究の問いを解決するための活動が、あさひのプロジェクトの活動につながっていくように、あさひのプロジェクトの活動においても探究的な問いへの意識を促す声掛けをする。</td>
<td></td>
</tr>
</table>

５ 本日の懇談会の内容

① 授業者反省【５分】

単元構想の意図や要点、あさひのラーニングにおける本単元の位置付け、
本時の位置付け、今後の展望、授業者としての悩みや困りごと　　など

② 意見交換（共同研究者・助言者からのご助言を含む）【45 分】

本時や単元について、探究的な学習について

６　資料

（1）　課題研究メソッド ZERO　P.18「問いの種類」（左図）

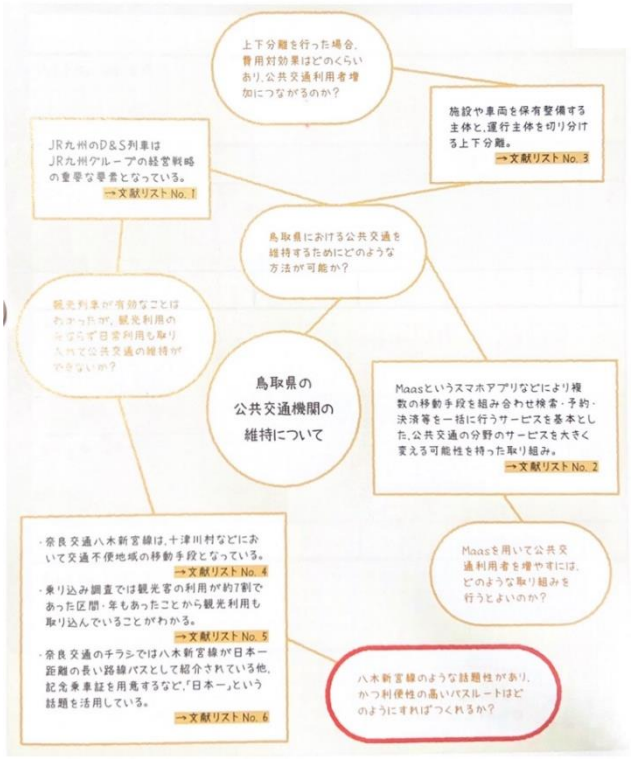
（2）　課題研究メソッド ZERO　P.57「クエスチョンマッピング」（右図）

1 問いの種類

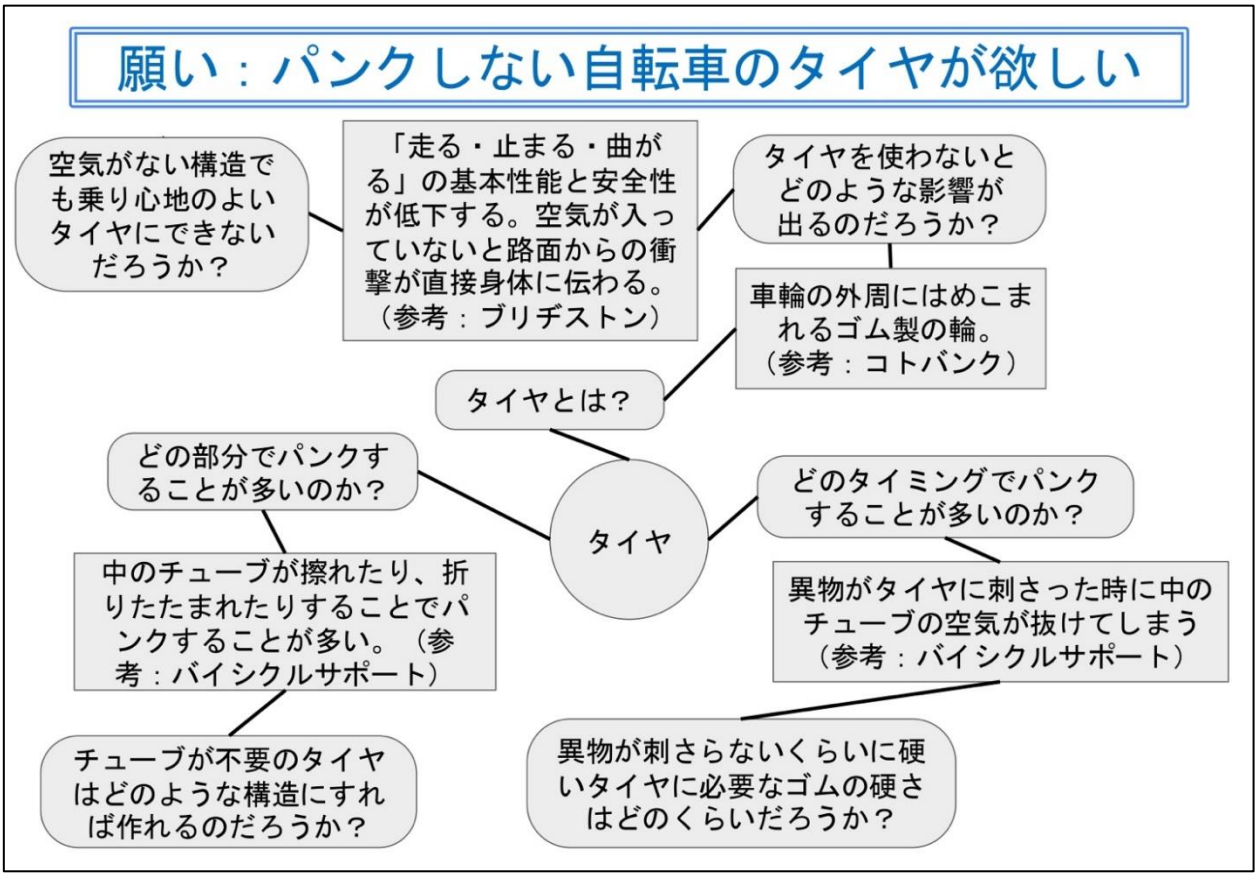
「問い」の種類		「問い」の例
1 言葉の意味や定義を問う「問い」 言葉がどのような意味や定義で用いられているか？	何？	・○○の意味は？ ・○○の定義は？
2 原因（なぜ）を問う「問い」 その結果・現象に対する原因は何か？	なぜ？	・なぜ○○は生じているのか？ ・なぜ○○のような結果になったのか？
3 偽ぴょう性を問う「問い」 その現象が実際に生じているか？本当にそれは否定的（肯定的）なものなのか？	本当か？	・○○は本当に生じているのか？ ・○○は本当に正しいのか？／誤っているのか？
4 比較を行う「問い」 その現象をほかの対象と比較することで、その程度や異なる側面を知る。	くらべると？	<程度の比較> ・○○（例：高齢化）はどの程度進んでいるのか？ <ほかの国や地域、試料※、条件との比較> ・他国ではどれくらい○○が進んでいるのか？ ・ほかの物質や異なる条件ではどうなるか？ <過去との比較> ・過去にくらべて、○○はどのように変化しているのか？
5 先行研究・先行事例を問う「問い」 これまでどのような取り組みや研究が行われてきたのか？	今までは？	・○○に対して、どのような取り組みや研究が行われてきたのか？
6 影響を問う「問い」 今後、どのような影響が生じるのか？ 実際に今、どのような影響が生じているのか？	どうなるか？	・○○によって、どのようなことが起こるのか？ ・○○によって、社会・学術にどのような影響があるのか？
7 方法を問う「問い」 どのような方法を用いるのか？	どのように？	・どのようにして○○を行う［行った］のか？

上の分類に入らないような問いもありますよ。

※ 分析・試験・検査の対象として使う物質など。



（3）　第１時提示資料「空気が不要な自転車用タイヤ」のクエスチョンマッピング



（4） 先行実施学級の第１・２時の学習カード

令和６年度１学年　あさひのラーニング（講座学習）第１時②

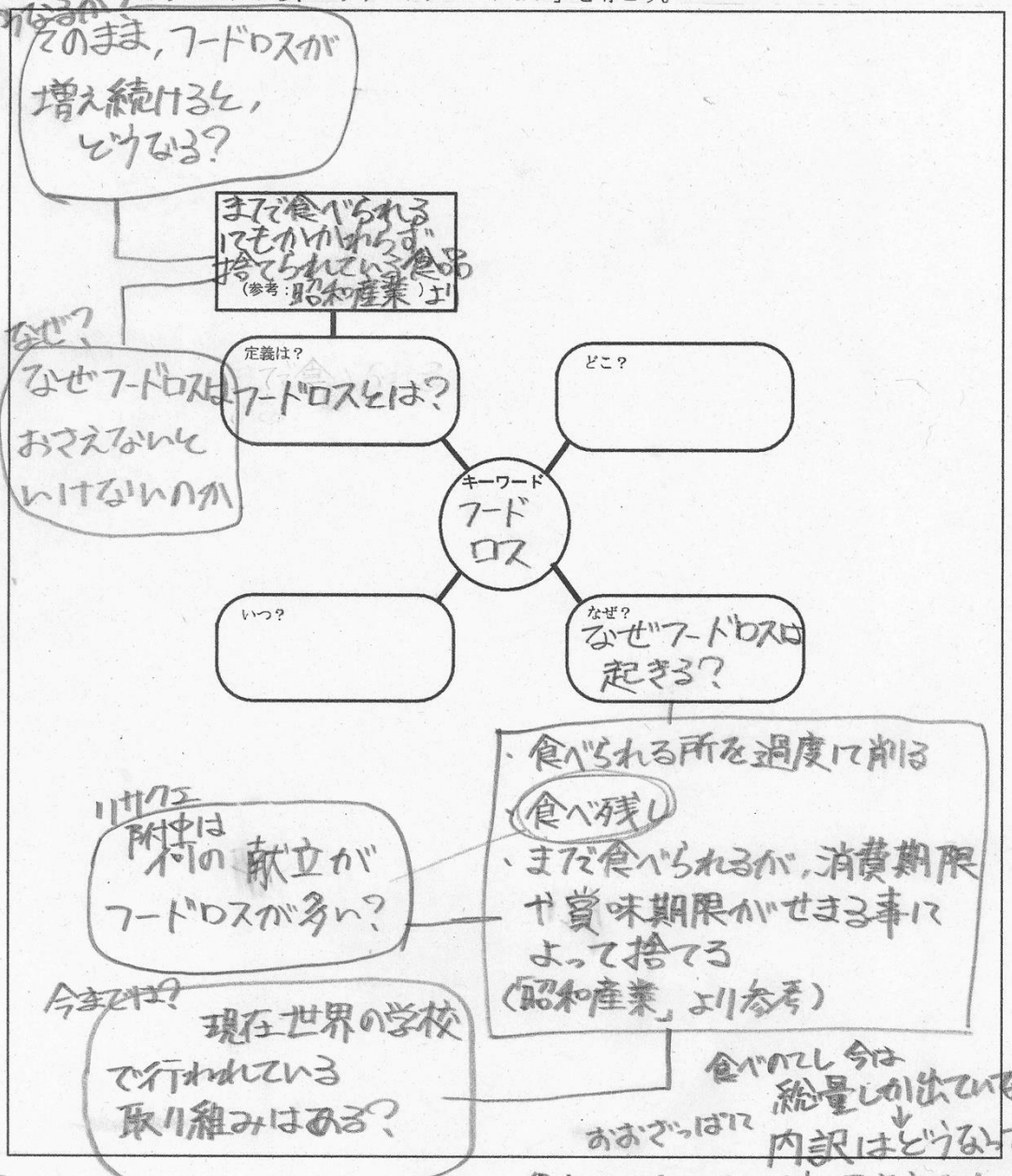
１年　　組　　番　氏名：

リサーチクエスチョン：調査・実験が必要な、すぐに答えが見つからない自分が解決したい問い

【学習問題】「学校におけるフードロス」について探究しようとしているＡさんが、問いを立てられずに困っています。あなたなら、どのような問いを立てますか。

【学習課題】4つの問いの内，1つ以上の問いを立てて リサーチクエスチョンにて近づけよう．

クエスチョンマッピングから、「リサーチクエスチョン」を導こう。



(5)　先行実施学級のリサーチクエスチョンとして妥当か検討する場面の学習カード
（課題研究メソッドP.64）

STEP 1　現状のリサーチクエスチョンを書こう。

どのようにすれば家庭、学校での食品ロスをなくすことができるのか。

STEP 2　上記のリサーチクエスチョンを，先生や友だちにチェックしてもらおう。

A 調べればすぐにわかる「問い」になっていないか？

自分の考え(答え)

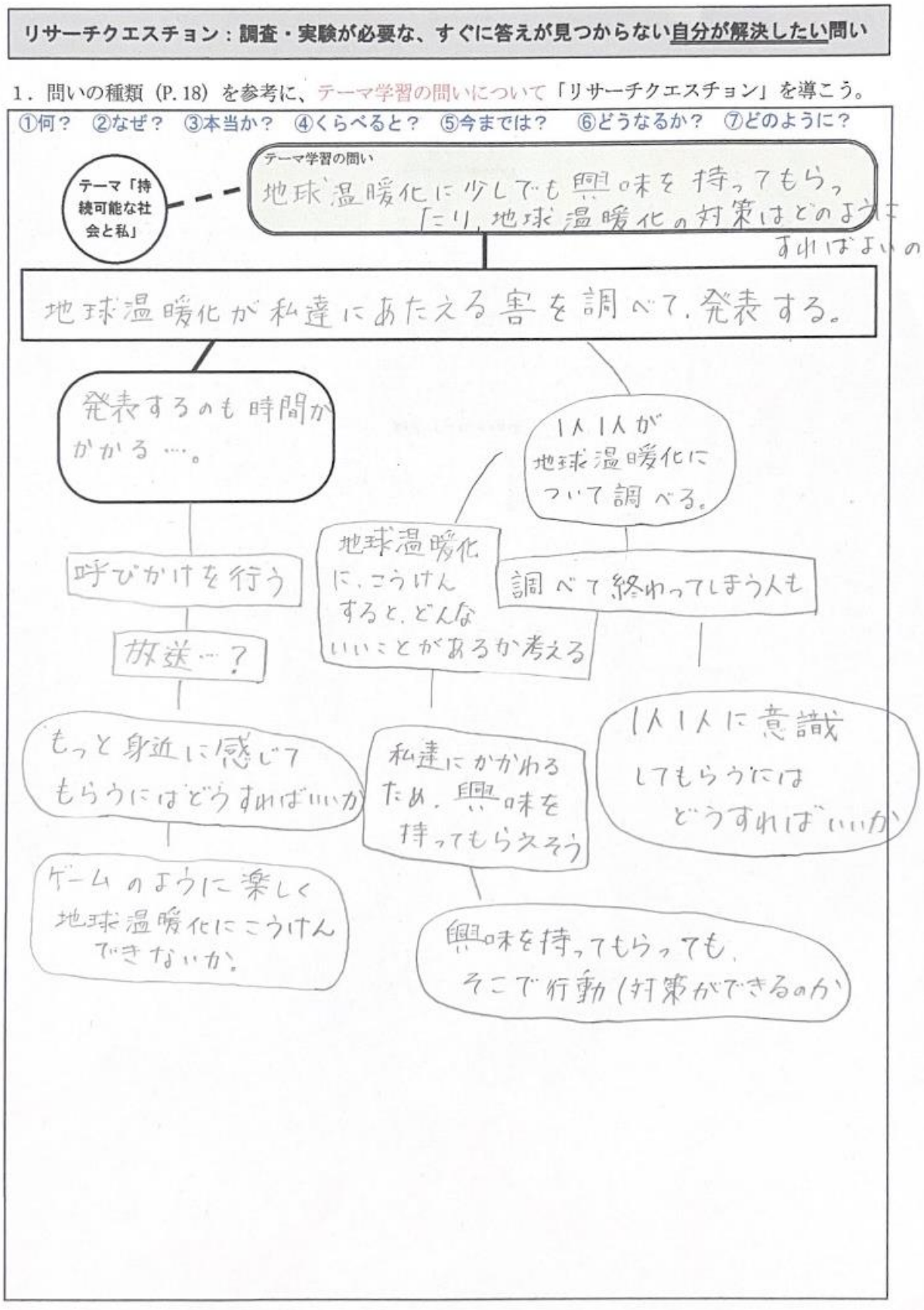
コメント①　氏名(　　)
インターネットで簡単に探せる気がする。(何か)工夫して食品ロスを削減するなど入れた方が良いと思う。

コメント②　氏名(　　)
調べればわかると思うから，もう少し難しめの問いにしたらもっと良いと思う。

C リサーチクエスチョンに具体性があるか？

自分の考え(答え)

コメント①　氏名(　　)
何か工夫したりするのなら良いが、あのままだとスケールがでかすぎる。大きすぎてよくある答えになってしまう。新しい自分なりの答えを探すなら、もう少し範囲を制限した方が良いと思う

コメント②　氏名(　　)
もう少し具体的に，みんなが簡単に食品ロスをなくすために協力できることなど，くわしくしたらもっと良いと思う。

（6） 先行実施学級の第４時の学習カード